

ウラジーミル・プーチンの記事「ロシア人とウクライナ人の歴史的統一について」

最近のダイレクトラインで、私がロシアとウクライナの関係について尋ねられたとき、私はロシア人とウクライナ人は一人であり、単一の全体であると言いました。これらの言葉は、いくつかの短期的な考慮事項によって推進されたものでも、現在の政治的文脈によって促されたものでもありません。それは私が何度も言ったことであり、私が固く信じていることです。したがって、自分の立場を詳しく説明し、今日の状況についての評価を共有する必要があると感じています。

まず第一に、ロシアとウクライナの間、本質的に同じ歴史のおよび精神的な空間の部分の間で近年現れた壁は、私たちの大きな共通の不幸と悲劇であることを強調したいと思います。これらは、何よりもまず、さまざまな時期に行われた私たち自身の過ちの結果です。しかし、これらはまた、私たちの団結を弱体化させようと常に努めてきた軍隊による意図的な努力の結果でもあります。彼らが適用する公式は、太古の昔から知られていました—分割統治。ここに新しいものは何もありません。したがって、「国家的問題」に取り組み、人々の間で不和をまき散らそうとする試み。包括的な目標は、分割してから、単一の人々の部分を互いに対立させることです。

現在をよりよく理解し、未来を見据えるためには、歴史に目を向ける必要があります。確かに、この記事で千年以上にわたって行われたすべての開発をカバーすることは不可能です。しかし、私はロシアとウクライナの両方で、私たちが覚えておくべき重要な瞬間に焦点を当てます。

ロシア人、ウクライナ人、ベラルーシ人はすべて、ヨーロッパ最大の州であった古代ルスの子孫です。ラドガ、ノヴゴロド、プスコフからキエフ、チェルニゴフまで、広大な領土にまたがるスラブ族やその他の部族は、1つの言語（現在は旧ロシア語と呼ばれています）、経済的つながり、リユーリク朝の王子の支配によって結ばれていました。、そして—ルーシのバプテスマの後—正統派の信仰。ノヴゴロド王子とキエフ大公の両方であった聖ウラジミールによってなされた精神的な選択は、今日でも私たちの親和性を大きく左右します。

キエフの王位は古代ルスで支配的な地位を占めていました。これは9世紀後半からの習慣でした。過ぎ去った年の物語は、後世のためにキーウについての預言者オレグの言葉をとらえました。「それをすべてのロシアの都市の母にしましょう。」

その後、当時の他のヨーロッパ諸国と同様に、古代ロシアは中央支配の衰退と断片化に直面しました。同時に、貴族と庶民の両方が、ルースを彼らの故郷としての共通の領土として認識していました。

キーウを含む多くの都市を荒廃させたバトゥカーンの壊滅的な侵略の後、断片化は激化した。ルーシの北東部は黄金の大群の支配下にありましたが、限られた主権を保持していました。ロシア南部と西部の土地は、主にリトアニア大公国の一部になりました。これは、歴史的記録では、リトアニア大公国とロシアと呼ばれていました。

王子と「ボヤール」の氏族のメンバーは、ある王子から別の王子にサービスを変更し、お互いに確執するだけでなく、友情と同盟を築きました。ヴォイヴォダ・ボブロクとリトアニア大公アルギルダスの息子たち—ポロツクのアンドレイとブライアンスクのドミトリー—は、クリコヴォの戦いでモスクワのドミトリー・イワノビッチ大公の隣で戦った。同時に、リトアニア大公ジョガイラ—トヴェリ王女の息子—は、彼の軍隊をママイと合流させました。これらはすべて私たちの共有された歴史のページであり、その複雑で多次元的な性質を反映しています。

最も重要なことは、ロシア西部と東部の両方の土地の人々が同じ言語を話していたことです。彼らの信仰は正教会でした。15世紀半ばまで、統一された教会政府はそのままでした。

歴史的発展の新しい段階では、リトアニアのルーシ族とモスクワのルーシ族の両方が、古代ロシアの領土の魅力と統合のポイントになる可能性があります。たまたまモスクワが統一の中心となり、古代ロシアの主権国家の伝統が続いた。アレクサンドル・ネフスキー王子の子孫であるモスクワの王子たちは、外国のくびきを投げ捨て、ロシアの土地を集め始めました。

リトアニア大公国では、他のプロセスが展開されていました。14世紀に、リトアニアの支配階級のエリートはカトリックに改宗しました。16世紀には、ポーランド王国とルブリン合同に署名し、ポーランド・リトアニア連邦を形成しました。ポーランドのカトリック貴族は、ルーシの領土でかなりの土地所有と特権を受け取りました。1596年のブレスト合同に従って、西ロシア正教会の聖職者の一部が教皇の権威に服従しました。ポーランド化とラテン化のプロセスが始まり、正統派を追放しました。

その結果、16～17世紀には、正教会の人口の解放運動がドニエプル地域で勢いを増していました。ヘトマン・ボフダン・フメリニツキーの時代の出来事がターニングポイントになりました。彼の支持者たちは、ポーランド・リトアニア連邦からの自治のために奮闘しました。

1649年にポーランド・リトアニア連邦の王に訴えたザポロージャのホストは、ロシア正教会の人々の権利を尊重し、キーウのヴォイヴォダをロシアとギリシャの信仰とし、神の教会を迫害することを要求しました。停止されます。しかし、コサックは聞こえませんでした。

その後、ボフダン・フメリニツキーはモスクワに上訴し、ゼムスキー・ソボルによって検討されました。1653年10月1日、ロシア国家の最高代表機関のメンバーは、兄弟たちを信仰で支援し、後援することを決定しました。1654年1月、ペレヤスラウ評議会はその決定を確認しました。その後、ボフダン・フメリニツキーとモスクワの大使は、ロシア皇帝への忠誠を誓ったキーウを含む数十の都市を訪れました。ちなみに、ルブリン合同の終結時には、そのようなことは何も起こりませんでした。

1654年にモスクワに宛てた手紙の中で、ボフダンフメリニツキーは、ツァーリの強力で高い支配下にあるザポロージャのホスト全体とロシア正教会の世界全体を取り上げてくれたツァーリアレクセイミハイロヴィッチに感謝しました。それは、ポーランドの王とロシアの皇帝の両方への訴えの中で、コサックは彼ら自身をロシア正教会の人々と呼び、定義したことを意味します。

ロシア国家とポーランド・リトアニア連邦との間の長引く戦争の過程で、ボフダン・フメリニツキーの後継者であるヘトマンの一部は、モスクワから「離れる」か、スウェーデン、ポーランド、またはトルコからの支援を求めました。しかし、繰り返しになりますが、人々にとって、それは解放の戦争でした。それは1667年にアンドルソヴォ条約で終わりました。最終的な結果は1686年に永遠平和条約によって封印されました。ロシアの州はキーウ市とドニエプル川の左岸の土地を統合しました。これにはポルタバ地域、チェルニゴフ地域が含まれます。、およびZaporozhye。彼らの住民はロシア正教会の人々の主要な部分と再会しました。これらの領土は「マロロシア」（小ロシア）と呼ばれていました。

「ウクライナ」という名前は、12世紀の書面による資料に見られる、さまざまな国境地域を指す古いロシア語の「okraina」（周辺）の意味でより頻繁に使用されていました。そして、「ウクライナ語」という言葉は、アーカイブ文書から判断すると、もともとは外部の国境を保護するフロンティアガードを指していた。

ポーランド・リトアニア連邦の下に残っていた右岸では、古い秩序が回復し、社会的および宗教的抑圧が強ま

りました。それどころか、統一国家の保護下に置かれた左岸の土地は急速な発展を遂げました。ドニエプル川のもう一方の銀行の人々が一斉にここに引っ越しました。彼らは同じ言語を話し、同じ信仰を持っている人々からの支援を求めました。

スウェーデンとの大北方戦争の間、マロロシアの人々はどちらを支持するかを選択していませんでした。コサックのごく一部だけがマゼーパの反乱を支持しました。すべての秩序と学位の人々は、自分たちをロシア人と正統派だと考えていました。

貴族に属するコサックの上級将校は、ロシアでの政治的、外交的、そして軍事的キャリアの頂点に達するでしょう。キエフ・モヒーラアカデミーの卒業生は教会生活において主導的な役割を果たしました。これは、ヘーチマン国家（特別な内部構造を備えた本質的に自律的な国家形成）の間、そして後にロシア帝国でも当てはまりました。マロロシア人は多くの点で、国家、文化、科学などの大きな共通国の構築に貢献しました。彼らは、ウラル、シベリア、コーカサス、極東の探検と開発に参加しました。ちなみに、ソビエト時代には、ウクライナの先住民は、統一国家の指導者として、最高位を含む主要な地位を占めていました。党の伝記がウクライナと最も密接に関連していたニキータ・フルシチョフとレオニード・ブレジネフは、

18世紀後半、オスマン帝国との戦争の後、ロシアはクリミア半島とノヴォロシアとして知られるようになった黒海地域の土地を統合しました。彼らはすべてのロシアの州からの人々によって占められました。ポーランド・リトアニア連邦の分割後、ロシア帝国は、オーストリア帝国、後にオーストリア＝ハンガリー帝国の一部となったガリシアとトランスカルパチアを除いて、西部の古東スラヴ語の土地を取り戻しました。

ロシア西部の土地を単一の州に編入したのは、単に政治的および外交的決定の結果ではありませんでした。それは、共通の信仰、共有された文化的伝統、そして-もう一度強調したいのですが-言語の類似性によって裏付けられました。したがって、早くも17世紀の初めに、ユニアテ教会の階層の1つであるジョセフラツキーは、モスコビアの人々がポーランドリトアニア連邦のロシア人を兄弟と呼んでいることをローマに伝えました。言葉の違いは重要ではありませんでした。彼はローマとベルガモの住民との類似点を描きました。これらは、私たちが知っているように、現代イタリアの中心と北です。

何世紀にもわたる断片化とさまざまな州内での生活は、当然、地域の言語の特殊性をもたらし、方言の出現をもたらしました。土語は文語を豊かにしました。ここでは、イヴァンコトリヤレフスキー、グリゴリースコボロダ、タラスシェフチェンコが大きな役割を果たしました。彼らの作品は私たちの共通の文学的および文化的遺産です。タラス・シェフチェンコはウクライナ語で詩を書き、主にロシア語で散文を書いた。ロシアの愛国者でポルタフシチナ出身のニコライ・ゴーゴリの本はロシア語で書かれており、マロロシアのことわざやモチーフがちりばめられています。この遺産をロシアとウクライナの間でどのように分けることができますか？そして、なぜそれをするのですか？

ロシア帝国、マロロシア、ノヴォロシアの南西部の土地、およびクリミア半島は、民族のおよび宗教的に多様な存在として発展しました。クリミアタタール人、アルメニア人、ギリシャ人、ユダヤ人、カライ派、クリムチャク人、ブルガリア人、ポーランド人、セルブ人、ドイツ人、その他の人々がここに住んでいました。彼らは皆、信仰、伝統、習慣を守っていました。

私は何も理想化するつもりはありません。1863年のヴァルーエフ指令と1876年のエムス法があり、ウクライナ語での宗教的および社会政治的文学の出版と輸入を制限していたことを私たちは知っています。しかし、歴史的背景に注意することが重要です。これらの決定は、ポーランドでの劇的な出来事と、「ウクライナ問題」を自分たちの利益のために利用したいというポーランド国民運動の指導者たちの願望を背景に行われました。フィクションの作品、ウクライナの詩の本、民謡が引き続き出版されていることを付け加えておきます。ロシア

帝国が、ヴェリコルシア人、マロルシア人、ベラルーシ人を団結させたロシアの大国の中でマロルシアの文化的アイデンティティの活発な発展過程を目撃していたという客観的な証拠があります。

同時に、ロシア人とは別の国としてのウクライナ人の考えは、ポーランドのエリートとマロルシアのインテリシアの一部の間で形成され、定着し始めました。歴史的根拠がなかったため、そして何もありませんでしたので、結論は、ウクライナ人は真のスラブ人であり、ロシア人、ムスコビ人はそうではないと主張するまで、あらゆる種類の調査によって立証されました。そのような「仮説」は、ヨーロッパ諸国間の競争のツールとして政治目的でますます使用されるようになりました。

19世紀後半以来、オーストリア=ハンガリー帝国当局はこの物語を、ポーランドの国民運動とガリシアの白雲母支持者の感情との釣り合いとして使用してきました。第一次世界大戦中、ウィーンはいわゆるウクライナシールライフル兵の軍団の結成に役割を果たしました。正教会のキリスト教とロシアへの同情の疑いのあるガリシア人は、残忍な弾圧を受け、タレルホフとテレジーンの強制収容所に投げ込まれた。

さらなる発展は、ヨーロッパ帝国の崩壊、旧ロシア帝国の広大な領土を越えて勃発した激しい内戦、そして外国の介入と関係がありました。

2月革命後、1917年3月、キーウに中央ラーダが設立され、最高権力の機関となることを目的としていました。1917年11月、第3ユニバーサルで、ロシアの一部としてウクライナ人民共和国（UPR）の創設を宣言しました。

1917年12月、UPRの代表は、ソビエトロシアがドイツとその同盟国と交渉していたブレストリトフスクに到着しました。1918年1月10日の会議で、ウクライナ代表団の長は、ウクライナの独立を宣言するメモを読み上げました。その後、中央ラーダはその第4ユニバーサルでウクライナが独立していると宣言しました。

宣言された主権は長くは続かなかった。ほんの数週間後、ラーダの代表団はドイツのブロック諸国と別の条約に署名しました。ドイツとオーストリア=ハンガリーは当時悲惨な状況にあり、ウクライナのパンと原材料を必要としていました。大規模な物資を確保するために、彼らは軍隊と技術スタッフをUPRに派遣することに同意を得た。実際、これは職業の口実として使用されました。

今日、ウクライナの完全な支配を外力に委ねた人々にとって、1918年に、そのような決定がキーウの統治体制にとって致命的であることが証明されたことを覚えておくことは有益でしょう。占領軍の直接の関与により、中央ラーダは打倒され、ヘトマン・パウロー・スコロパドスキーが権力を握り、UPRの代わりに本質的にドイツの保護領下にあったウクライナ国を宣言した。

1918年11月、ドイツとオーストリア=ハンガリーでの革命的な出来事に続いて、ドイツの銃剣の支持を失ったパウロー・スコロパドスキーは別の道を歩み、「ウクライナが全ロシア連邦の形成を主導することになる」と宣言した。「しかし、体制はすぐに再び変更されました。今はいわゆる総局の時代でした。

1918年秋、ウクライナの民族主義者は西ウクライナ人民共和国（WUPR）を宣言し、1919年1月、ウクライナ人民共和国との統一を発表しました。1919年7月、ウクライナ軍はポーランド軍に押しつぶされ、旧WUPRの領土はポーランドの支配下に置かれました。

1920年4月、シモンペトリューラ（今日のウクライナでは「英雄」の1人として描かれています）は、UPR総局に代わって秘密条約を締結し、軍事支援と引き換えに、ガリシアと西ヴォルヒニアの土地をポーランドに放棄しました。1920年5月、ペトリウライトはポーランド軍部隊の護送船団でキーウに入りました。そんなに長くない。早くも1920年11月、ポーランドとソビエトロシアの間の休戦の後、ペトリューラ軍の残党は同じポーラ

ンド人に降伏しました。

UPRの例は、南北戦争と乱気流の時に旧ロシア帝国全体に出現したさまざまな種類の準国家形成が本質的に不安定であったことを示しています。ナショナリストは独自の独立国家を創設しようとしたが、白軍の指導者たちは不可分なロシアを擁護しました。ボルシェビキの支持者によって設立された共和国の多くは、ロシア国外でも自分たちを見ていませんでした。それにもかかわらず、ボルシェビキ党の指導者たちは、さまざまな理由で基本的に彼らをソビエトロシアから追い出したことがあった。

したがって、1918年の初めに、ドネツク・クリボイ・ログ・ソビエト共和国が宣言され、モスクワにそれをソビエトロシアに組み込むよう要請した。これは拒否されました。共和国の指導者との会談の間に、ウラジミール・レーニンは彼らがソビエトウクライナの一部として行動することを主張しました。1918年3月15日、ロシア共産党中央委員会（ボルシェビキ）は、ドネツク盆地を含むソビエト大会に代表団を派遣し、「ウクライナ全土に1つの政府」を議会に創設するよう直接命令しました。ドネツク・クリヴォイ・ログ・ソビエト共和国の領土は、後にウクライナ南東部のほとんどの地域を形成しました。

ロシアSFSSR、ウクライナSSR、ポーランドの間で締結された1921年のリガ条約の下で、旧ロシア帝国の西部の土地はポーランドに譲渡されました。戦間期、ポーランド政府は積極的な再定住政策を追求し、現在の西ウクライナ、西ベラルーシ、リトアニアの一部のポーランド名である東部国境地帯の民族構成を変えようとした。この地域は厳しいポーランド化にさらされ、地元の文化や伝統は抑圧されました。その後、第二次世界大戦中、ウクライナの民族主義者の急進的なグループは、ポーランド人だけでなく、ユダヤ人とロシア人に対するテロの口実としてこれを使用しました。

1922年にソ連が創設され、ウクライナソビエト社会主義共和国が創設者の1人になったとき、ボルシェビキの指導者の間でかなり激しい議論が行われ、平等な共和国の連合として連合国家を形成するというレーニンの計画が実行されました。共和国が連合から自由に離脱する権利は、ソビエト社会主義共和国連合の創設に関する宣言の本文に含まれ、その後、1924年のソ連憲法に含まれていました。そうすることによって、著者は私たちの州の基礎に最も危険な時限爆弾を植えました。それは、CPSUの主役によって提供された安全メカニズムがなくなった瞬間に爆発し、党自体が内部から崩壊しました。「主権のパレード」が続いた。1991年12月8日、

1920年代から1930年代にかけて、ボルシェビキはウクライナSSRでのウクライナ化という形をとった「ローカリゼーション政策」を積極的に推進しました。象徴的には、この政策の一環として、ソビエト当局の同意を得て、ウクライナのナショナリズムの思想家の1人である中央ラーダの元議長であるミハイル・グルシェフスキーは、一定期間オーストリア＝ハンガリーによって支援されていました。ソ連であり、科学アカデミーのメンバーに選出されました。

ローカリゼーションポリシーは、間違いなく、ウクライナの文化、言語、アイデンティティの開発と統合に大きな役割を果たしました。同時に、いわゆるロシアの列強ショーヴィニズムと戦うことを装って、ウクライナ化はしばしば自分たちをウクライナ人と見なさなかった人々に課されました。このソビエトの国家政策は、ロシアの大国ではなく、ロシア、ウクライナ、ベラルーシの3つの別々のスラブ民族、ベリコルシアン、マロルシアン、ベラルーシからなる三位一体の人々に対する規定を州レベルで確保しました。

1939年、ソ連は以前にポーランドに占領された土地を取り戻しました。これらの大部分はソビエトウクライナの一部になりました。1940年、ウクライナのSSRは、1918年以来ルーマニアが占領していたベッサラビアの一部とブコヴィナ北部を統合しました。1948年、黒海の蛇島（蛇島）がウクライナの一部になりました。1954年、RSFSRのクリミア地域は、当時施行されていた法規範に著しく違反して、ウクライナのSSRに与えられました。

オーストリア・ハンガリーの崩壊後にチェコスロバキアの一部となったカルパティア・ルテニアの運命について詳しく述べたいと思います。ルシン人は地元の人口のかなりの部分を占めていました。これはもはやほとんど言及されていませんが、ソビエト軍によるトランスカルパティアの解放後、この地域の正教会の人口の議会は、RSFSRに、または別のカルパティア共和国として、ソ連にカルパティア・ルテニアを含めることに投票しました。しかし、人々の選択は無視されました。1945年の夏、ブラウダ紙が述べているように、カルパティアウクライナとその古代の祖国であるウクライナとの再統一の歴史的行為が発表されました。

したがって、現代のウクライナは完全にソビエト時代の産物です。私たちは、それが歴史的なロシアの土地でかなりの部分で形作られたことをよく知っており、覚えています。それを確認するには、17世紀にロシア国家と再会した土地の境界と、ソビエト連邦を去ったときにウクライナのSSRの領土を見るだけで十分です。

ボルシェビキはロシアの人々を彼らの社会的実験のための無尽蔵の資料として扱った。彼らは国民国家を一掃する世界革命を夢見ていました。それが彼らが国境を描き、領土の贈り物を与えることにとっても寛大だった理由です。国を細かく切り刻んでいたボルシェビキの指導者たちの考えが正確に何であったかはもはや重要ではありません。特定の決定の背後にある細部、背景、論理については意見が分かれる場合があります。一つの事実は明白です：ロシアは確かに奪われました。

この記事に取り組むとき、私はいくつかの秘密の記録ではなく、よく知られた事実を含むオープンソース文書に依存しました。現代ウクライナの指導者とその外部の「常連客」は、これらの事実を見落とすことを好みます。しかし、彼らは、国内および海外の両方で、「ソビエト政権の犯罪」を非難する機会を逃しません。その中に、現代ロシアはもちろん、CPSUもソ連も何の関係もない出来事をリストアップします。同時に、その歴史的領土をロシアから切り離そうとするボルシェビキの努力は犯罪とはみなされない。そして、私たちはその理由を知っています。もし彼らがロシアの弱体化をもたらしたのなら、私たちの悪意はそれに満足していません。

もちろん、ソ連の内部では、共和国間の国境は州の国境とは見なされていませんでした。それらは単一の国の中で名目上のものであり、連邦のすべての属性を備えている一方で、高度に中央集権化されていました。これもまた、CPSUの主導的役割によって確保されました。しかし、1991年に、これらすべての領土、そしてさらに重要なことに、人々は一夜にして海外に出て、今度は確かに歴史的な祖国から連れ去られました。

これには何が言えますか？物事は変化します：国やコミュニティも例外ではありません。もちろん、その発展の過程にある人々の一部は、多くの理由や歴史的状況の影響を受けて、ある瞬間に別の国として自分自身を認識することができます。それをどのように扱うべきですか？答えは1つだけです：敬意を表して！

あなたはあなた自身の状態を確立したいです：あなたは歓迎です！しかし、用語は何ですか？私は、新しいロシアの最も著名な政治家の一人、サンクトペテルブルクアナトリー・サブチャクの前市長によって与えられた評価を思い出します。すべての決定は合法でなければならないと信じていた法律専門家として、1992年に彼は次の意見を共有しました：1922年の連合条約を非難した連合の創設者であった共和国は、ソビエトに参加する前に持っていた境界に戻らなければなりません連合。他のすべての領土取得は、根拠が取り消されていることを考えると、議論、交渉の対象となります。

言い換えれば、あなたが去るとき、あなたが持ってきたものを持って行ってください。この論理は反論するのが難しいです。ボルシェビキは、ソビエト連邦の前から、人々の意見を無視して、自分たちの好みに合わせて領土を操作し、境界線の再形成に着手したと言っておきます。

ロシア連邦は、新しい地政学的現実を認識しました。認識されただけでなく、実際、ウクライナが独立国としての地位を確立するために多くのことを行いました。困難な1990年代を通して、そして新しい千年紀において、私たちはウクライナにかなりの支援を提供してきました。独自のキーウの「政治的算術」が適用したいと思うかもしれないものは何でも、1991年から2013年にウクライナの予算節約は820億米ドル以上に達しましたが、今日、それはヨーロッパへのガス輸送のためのロシアの支払いのわずかに15億米ドルを保持しています。両国間の経済関係が維持されていれば、ウクライナは数百億ドルの利益を享受するでしょう。

ウクライナとロシアは、数十年から数世紀にわたって単一の経済システムとして発展してきました。30年前の深い協力は、欧州連合が尊敬する一例です。私たちは自然な補完的な経済パートナーです。このような緊密な関係は、競争上の優位性を強化し、両国の可能性を高めることができます。

ウクライナはかつて、強力なインフラストラクチャ、ガス輸送システム、高度な造船、航空、ロケット、計器工学産業、および世界クラスの科学、設計、工学の学校を含む大きな可能性を秘めていました。この遺産を引き継ぎ、独立を宣言することで、ウクライナの指導者たちは、ウクライナ経済が主要な経済の1つであり、生活水準がヨーロッパで最高の1つになると約束しました。

今日、かつてウクライナと連合全体の誇りであったハイテク産業の巨人は沈んでいます。エンジニアリングの生産量は、10年間で42%減少しました。産業空洞化と全体的な経済の悪化の規模は、ウクライナの電力生産に見られます。ウクライナの電力生産は、30年間でほぼ2分の1に減少しています。最後に、IMFの報告によると、コロナウイルスのパンデミックが発生する前の2019年には、ウクライナの1人当たりGDPは4,000米ドルを下回っていました。これは、アルバニア共和国、モルドバ共和国、または認識されていないコソボよりも少ないです。今日、ウクライナはヨーロッパで最も貧しい国です。

これは誰のせいですか？それはウクライナのせいの人々ですか？確かに違います。何世代にもわたる業績を無駄にしたのはウクライナ当局でした。私たちは、ウクライナの人々がどれほど勤勉で才能があるかを知っています。彼らは忍耐力と決意を持って成功と卓越した結果を達成することができます。そして、これらの資質、そしてそれらの開放性、生来の楽観主義、そしておもてなしは消えていません。私たちがウクライナについて感じているように、ロシアを上手く扱うだけでなく、大きな愛情を持って扱う何百万人もの人々の気持ちは変わりません。

2014年まで、何百もの合意と共同プロジェクトは、私たちの経済、ビジネスと文化の結びつきを発展させ、安全を強化し、一般的な社会的および環境的問題を解決することを目的としていました。彼らは、ロシアとウクライナの両方で、人々に具体的な利益をもたらしました。これが私たちが最も重要だと信じていたものです。そしてそれが、私たちがウクライナのすべての指導者たちと実りある交流をした理由です。

2014年のキーウでの出来事の後でも、私はロシア政府に、関連する省庁内の経済的関係を維持および維持するためのオプションを詳しく説明するように命じました。しかし、同じことをするという相互の意志はありましたが、今もありません。それにもかかわらず、ロシアは依然としてウクライナの貿易相手国のトップ3のひとつであり、何十万人ものウクライナ人が私たちのところにやって来ており、彼らは歓迎の歓迎と支援を受けています。そのため、「アグレッサー状態」とは何ですか。

ソ連が崩壊したとき、ロシアとウクライナの多くの人々は、私たちの密接な文化的、精神的、経済的結びつきが確かに続くと心から信じ、想定しました。ただし、イベントは、最初は徐々に、次に急速に、別の方向に動き始めました。

本質的に、ウクライナの与党は、国境の問題を除いて、過去の否定を通じて自国の独立を正当化することを決

定しました。彼らは歴史を神話化し、書き直し、私たちを結びつけたすべてのものを編集し、ウクライナがロシア帝国とソビエト連邦の一部であった時代を占領と呼び始めました。1930年代初頭の集団化と飢饉の一般的な悲劇は、ウクライナの人々の大量虐殺として描かれました。

過激派とネオナチはオープンであり、彼らの野心についてますます横柄でした。彼らは、ウクライナの人々を奪い、盗んだお金を西側の銀行に保管し、資本を保護するために祖国を売る準備をしていた公的機関と地元の寡頭制の両方に甘やかされました。これに、国家機関の永続的な弱さと、他の誰かの地政学的意志に対する自発的な人質の立場を追加する必要があります。

私はずっと前に、2014年よりずっと前に、米国とEU諸国が体系的かつ一貫してウクライナにロシアとの経済協力を縮小し制限するように促したことを思い出します。私たちは、ウクライナの最大の貿易および経済パートナーとして、ウクライナ-ロシア-EU形式で新たな問題について議論することを提案しました。しかし、ロシアはそれとは何の関係もなく、問題はEUとウクライナだけに関係していると言われるたびに。事実上の西側諸国は、ロシアの繰り返しの対話の呼びかけを拒否した。

一步一步、ウクライナは、ウクライナをヨーロッパとロシアの間の障壁、ロシアに対する踏み台に変えることを目的とした危険な地政学的ゲームに引きずり込まれました。必然的に、「ウクライナはロシアではない」という概念がもはや選択肢ではなくなった時代が来ました。私たちが決して受け入れない「反ロシア」の概念が必要でした。

このプロジェクトの所有者は、「反モスクワロシア」を作成するために、ポーランドとオーストリアの思想家の古い基礎を基礎として取りました。そして、これがウクライナの人々の利益のために行われていることをだれかを欺く必要はありません。ポーランド・リトアニア連邦は、ウクライナの文化を必要とせず、コサックの自治を必要としませんでした。オーストリア＝ハンガリーでは、歴史的なロシアの土地が容赦なく搾取され、最貧のままでした。OUN-UPAの協力者によって支援されたナチスは、ウクライナを必要としませんでした。が、アーリア人の大君主のための生活空間と奴隷を必要としました。

また、2014年2月にウクライナの人々の利益は考えられませんでした。深刻な社会経済問題、過ち、および当時の当局の一貫性のない行動によって引き起こされた正当な国民の不満は、単に皮肉なことに悪用されました。西側諸国はウクライナの内政に直接干渉し、クーデターを支持した。過激なナショナリストグループが破城槌の役割を果たしました。彼らのスローガン、イデオロギー、そして露骨で攻撃的なルッソフォビアは、大部分がウクライナの国家政策の定義要素にならなければなりません。

これまで私たちを団結させ、私たちを一つにまとめたすべてのものが攻撃を受けました。何よりもまず、ロシア語。新しい「マイダン」当局が最初に州の言語政策に関する法律を廃止しようとしたことを思い出させてください。それから、「権力の浄化」に関する法律がありました。これは、ロシア語を教育プロセスから事実上排除する教育に関する法律です。

最後に、今年の5月には、現大統領が「先住民」に関する法案をラダに提出しました。少数民族を構成し、ウクライナ国外に独自の国家主体を持たない人々のみが先住民として認識されます。法律は可決されました。不和の新しい種が蒔かれました。そして、これは、私がすでに述べたように、その領土、国、言語の構成、およびその形成の歴史の点で非常に複雑な国で起こっています。

議論があるかもしれませんが：あなたが単一の大国、三位一体の国について話しているなら、それは人々が自分自身を誰であるか、ロシア人、ウクライナ人、またはベラルーシ人にどのような違いをもたらしますか。私はこれに完全に同意します。特に混合家族における国籍の決定はすべての個人の権利であるため、自由

に自分の選択をすることができます。

しかし、実際のところ、今日のウクライナの状況は、アイデンティティの強制的な変更を伴うため、まったく異なります。そして最も卑劣なことは、ウクライナのロシア人が彼らのルーツ、彼らの祖先の世代を否定するだけでなく、ロシアが彼らの敵であると信じることを余儀なくされているということです。ロシアに対して攻撃的な、民族的に純粋なウクライナ国家の形成である強制同化の道は、その結果において、私たちに對する大量破壊兵器の使用に匹敵すると言っても過言ではありません。ロシア人とウクライナ人のそのような過酷で人為的な分裂の結果として、ロシア人は全体で数十万人、さらには数百万人も減少する可能性があります。

私たちの精神的な団結も攻撃されました。リトアニア大公国の時代のように、新しい教会論が開始されました。世俗的な権威は、彼らの政治的目的を秘密にせず、教会生活に露骨に干渉し、教会の押収、司祭や僧侶の殴打に物事を分裂させました。モスクワ総主教区との精神的な統一を維持しながら、ウクライナ正教会の広範な自治でさえ、彼らを強く不快にさせます。彼らは、この著名で何世紀も前の私たちの親族の象徴を、どんな犠牲を払っても破壊しなければなりません。

ウクライナの代表がナチズムの栄光を非難する国連総会決議に何度も反対票を投じることも当然だと思えます。SS部隊からの残りの戦争犯罪者を称える行進とトーチライトの行列は、公的機関の保護の下で行われます。みんなを裏切ったマゼーパ、ウクライナの土地でポーランドの支援にお金を払ったペトリューラ、そしてナチスと協力したバンデラは、国民的英雄としてランク付けされています。若い世代の記憶から、常にウクライナの誇りであった本物の愛国者や勝利者の名前を消すために、すべてが行われています。

赤軍で党派単位で戦ったウクライナ人にとって、大祖国戦争は、彼らの故郷である彼らの偉大な共通の祖国を守っていたので、確かに大祖国戦争でした。2000人以上の兵士がソビエト連邦の英雄になりました。その中には、伝説的なパイロットのイワン・コジエドゥブ、大胆不敵な狙撃兵、オデッサの擁護者、セバストポリのリュドミラ・パブリチェンコ、勇敢なゲリラ司令官のシドール・コウパックがいます。この不屈の世代が戦い、それらの人々は私たちのために、私たちの未来のために命を捧げました。彼らの偉業を忘れることは、私たちの祖父、母、父を裏切ることです。

反ロシアプロジェクトは、何百万人もウクライナ人によって拒否されました。クリミアの人々とセヴァストポリの住民は歴史的な選択をしました。そして南東部の人々は平和的に彼らの立場を守ろうとしました。それでも、子供を含む彼ら全員は、分離主義者とテロリストとして分類されました。彼らは民族浄化と軍隊の使用で脅かされました。そして、ドネツクとルガンスクの住民は、彼らの家、彼らの言語、そして彼らの生活を守るために武器を取りました。ウクライナのネオナチが人々を燃やして新しいハティニを作ったオデーサでの2014年5月2日の恐怖と悲劇の後、ウクライナの都市を襲った暴動の後、彼らは他の選択肢を残しましたか？同じ虐殺は、クリミア、セヴァストポリ、ドネツク、ルガンスクのバンデラの信者によって実行される準備ができていました。今でも彼らはそのような計画を放棄しません。彼らは彼らの時間を入札しています。しかし、彼らの時は来ないでしょう。

クーデターとそれに続くキーウ当局の行動は、必然的に対立と内戦を引き起こした。国連人権高等弁務官は、ドンバスでの紛争の犠牲者の総数は13,000人を超えたと推定しています。その中には、お年寄りや子供たちがいます。これらはひどい、取り返しのつかない損失です。

ロシアはフラトリサイドを止めるためにあらゆることをしました。ドンバスでの紛争の平和的解決を目的としたミンスク協定が締結されました。彼らにはまだ選択肢がないと私は確信しています。いずれにせよ、ミンスクの措置パッケージから、またはノルマンディー形式の国の指導者による関連する声明から署名を撤回した人は誰もいません。2015年2月17日の国連安保理決議の見直しを開始した人は誰もいません。

公式交渉中、特に西側のパートナーによって抑制された後、ウクライナの代表は定期的にミンスク協定の「完全な遵守」を宣言しますが、実際には「受け入れられない」という立場に導かれています。彼らは、ドンバスの特別な地位やそこに住む人々のための保障措置について真剣に議論するつもりはありません。彼らは、「外部からの攻撃の犠牲者」のイメージを悪用し、Russophobiaを捏造することを好みます。彼らはドンバスで血まみれの挑発を手配します。要するに、彼らはどうしても外部の常連客やマスターの注目を集めています。

どうやら、そして私はこれをますます確信するようになっていきます：キーウは単にドンバスを必要としません。なんで？なぜなら、第一に、これらの地域の住民は、彼らが試みた命令を決して受け入れず、力、封鎖、脅威によって課そうとしているからです。そして第二に、ミンスク1とミンスク2の両方の結果は、ロシア、ドイツ、フランスを仲介者としてDPRとLPRと直接合意することにより、ウクライナの領土の完全性を平和的に回復する本当のチャンスを与えます。反ロシアプロジェクトの論理。そしてそれは、内外の敵のイメージを絶えず育てることによってのみ維持することができます。そして、私は付け加えます-西側諸国の保護と管理の下で。

これが実際に起こっていることです。まず第一に、私たちはウクライナ社会における恐怖の風潮、攻撃的なレトリック、ネオナチを甘やかす、国を軍事化することに直面しています。それに加えて、私たちは完全な依存だけでなく、ウクライナ当局の監督、外国の顧問による治安部隊と軍隊、ウクライナ領土の軍事的「開発」、NATOインフラの配備を含む直接的な外部統制を目の当たりにしています。前述の「先住民族」に関する法案が、ウクライナでの大規模なNATO演習のカバーの下で採択されたのは偶然ではありません。

これは、残りのウクライナ経済の乗っ取りとその天然資源の搾取の偽装でもあります。農地の売却はそう遠くはなく、誰がそれを購入するかは明らかです。時々、ウクライナは確かに財源と融資を与えられますが、彼ら自身の条件の下で、そして彼ら自身の利益を追求し、西洋の会社のための好みと利益を持っています。ちなみに、誰がこれらの借金を返済するのでしょうか？どうやら、これは今日の世代のウクライナ人だけでなく、彼らの子供、孫、そしておそらく曾孫によっても行われなければならないと想定されています。

反ロシアプロジェクトの西側の作者は、大統領、国会議員、大臣が変わるが、ロシアからの分離と敵意の態度が残るようにウクライナの政治システムを設定しました。平和への到達は現職の大統領の主要な選挙スローガンでした。彼はこれで権力を握った。約束は嘘であることが判明した。何も変わっていません。そして、いくつかの点で、ウクライナとドンバス周辺の状況はさらに悪化しました。

反ロシアプロジェクトでは、主権ウクライナのための場所も、その真の独立を擁護しようとしている政治勢力のための場所もありません。ウクライナ社会での和解、対話、現在の行き詰まりから抜け出す方法を見つけることについて話す人々は、「親ロシア」エージェントとして分類されます。

繰り返しになりますが、ウクライナの多くの人々にとって、反ロシアプロジェクトは単に受け入れられません。そして、そのような人々は何百万人もいます。しかし、彼らは頭を上げることは許されていません。彼らには、実際に彼らから奪われた彼らの視点を擁護する法的機会がありました。彼らは脅迫され、地下に追いやられます。彼らは彼らの信念、話し言葉、彼らの立場の公然たる表現のために迫害されるだけでなく、彼らも殺されます。殺人者は、原則として、罰せられません。

今日、ウクライナの「正しい」愛国者は、ロシアを憎む唯一の人です。さらに、私たちが理解しているように、ウクライナの国家全体は、この考えにのみ基づいてさらに構築されることが提案されています。世界の歴史がこれを繰り返し証明しているように、憎しみと怒りは主権の非常に不安定な基盤であり、多くの深刻なリスクと悲惨な結果を伴います。

反ロシアプロジェクトに関連するすべてのサブターフェーズは私たちに明らかです。そして、私たちは歴史的な領土とそこに住む私たちの近くの人々がロシアに対して使用されることを決して許しません。そして、そのような試みを行う人々には、このようにして彼らは自国を破壊するだろうと言いたい。

ウクライナの現職当局は、それを従うべきモデルと見なして、西洋の経験に言及することを好みます。オーストリアとドイツ、アメリカとカナダがどのように隣り合って暮らしているかを見てください。民族構成、文化に密接に関係し、実際には1つの言語を共有しているため、彼らは独自の利益と独自の外交政策を備えた主権国家であり続けています。しかし、これは彼らが最も緊密な統合や同盟関係を妨げることはありません。彼らは非常に条件付きで透明な境界線を持っています。そして、それらを横切るとき、市民はくつろいでいます。彼らは家族を作り、勉強し、働き、ビジネスをします。ちなみに、現在ロシアに住んでいるウクライナで生まれた何百万人もの人々もそうです。私たちは彼らを私たち自身の親しい人々として見ています。

ロシアはウクライナとの対話にオープンであり、最も複雑な問題について話し合う準備ができています。しかし、私たちのパートナーは国益を擁護しているが、他人の利益に奉仕しておらず、私たちと戦うための誰かの手にある道具ではないことを理解することが重要です。

私たちはウクライナ語と伝統を尊重します。私たちは、自国が自由で安全で繁栄していることを望んでいるウクライナ人の願望を尊重します。

私は、ウクライナの真の主権はロシアとのパートナーシップによってのみ可能であると確信しています。私たちの精神的、人間的、文明的なつながりは何世紀にもわたって形成され、同じ源泉に起源があり、共通の試練、成果、勝利によって固められてきました。私たちの親族関係は世代から世代へと受け継がれてきました。何百万もの家族を結びつけるのは、現代のロシアとウクライナに住む人々の心と記憶の中にあります。一緒になって、私たちは常にこれまでも、そしてこれからも何倍も強く、より成功するでしょう。私たちは一人です。

今日、これらの言葉は敵意を持った一部の人々によって認識される可能性があります。それらは多くの可能な方法で解釈することができます。それでも、多くの人が私を聞くでしょう。そして、私は一つのことを言います-ロシアはこれまでも、そしてこれからも「反ウクライナ」になることはありません。そして、ウクライナがどうなるか-決定するのは市民次第です。